

第20回

ひと・人・ヒト 2016
in 蒲郡

ヨット大会2デイズ



開催期日：平成28年7月16日（土）17日（日）

場所：ニッポンチャレンジ蒲郡ベースキャンプ跡地 及び
バリアフリーポンツーン「マンボウ」周辺 蒲郡港沖

広がった！繋がった！この海で！

20年も続いた・・・この笑顔！

また、海に行くの？聞かれる。海の魅力を深く知る人達と
障がい者が有って・・・海にチャレンジするの？！聞かれた人達が出会ったエリカカップ
危険・不安・無知
同じ街に住んでいるのに・・・互いに接することが無く、
このひと・人・ヒトヨットは、一つ一つを知る度に・・・
不安を興味に 変え
驚きを、喜びに変える出会いを続けて来ました

立ち上げに悪戦苦闘した仲間や
この企画を大切に感じ、続けるために
大切なことを譲って関わり続けていただけ
そうした仲間たちが、
今年も そして20年間も
繋がりを続けた ひと・人・ヒトヨットでした
今では、友が友を誘い。さらに子供が主要なメンバーとして
笑顔を作る側に参加して下さいました。

この海は、明らかに皆さんを迎える海に
皆さまのお陰で変えられた気がします。

ひと・人・ヒトヨット大会2デイズin蒲郡 実行委員長 金子哲三



全員で記念撮影



参加者の声

Yacht 初乗船「初めての体験に大きな感動」

蒲郡市恒例のひと・人・ヒトヨット大会、初めて参加する A 氏、Yacht 乗船に自分の身体に自信の持てない体幹障害 40 才の彼、同僚の先輩 O 氏に戸惑いをみせている。クルーの明るい笑顔に後押しされ恐るおそる乗船。

レース前の助走、スタート間際に艇内に高まる緊張に彼は自らのめり込んでいる。もともとスポーツに興味のある彼は乗船前の不安は全く無くなっていた。下船の時は興奮冷めやまず、気色満面の笑顔、普段はちょっと控え目な彼、帰路の車中の談話に加わり多めに盛り上がりました。無口なのに、躰は皆の和に溶け込んでいた。同乗者からまたアッシーを頼まれ、声にならない微笑みに、いい体験をした思いが現れていました。

チャレンジャー 岩月富士雄



第 20 回の節目で、意義ある集大成となったと思います。国内でも稀有といえるイベントが、伝統の事業として認知されるようになったと考えます。大成功の裡に終了したことから、今後とも継続し益々発展することが期待されます。

2 日間になったそうです。実際に障がいのある方々と関わって皆優しい方ばかりで、またヨットに乗せてくれた方たちも皆気さくな方で楽しく貴重な体験だったと感謝の言葉を述べています。

また、岡崎女子大学の学生たちがボランティアを通して多くのことを学んでいます。1 日目に障がい体験をし、その大変さを分かった上で 2 日目に介助の仕方等どこに気を付けて参加者の方に対応したら良いか勉強になった様です。大変なことも沢山あったが丁寧に教えて下さり、また参加したいと思える楽しい

サポーター 岡崎女子大学 小野隆

私は「ひと・人・ヒトヨット大会」に初期のころから参加しています。

なぜ、このレースに参加するようになったか振り返ってみると、遠い日のことでわすれました。ただ「なんとかたい」という気持ちが自分を動かしたと思います。「障害者のお手伝いをする」という表現は、私にはしっくりと来ません。なぜなら、むしろ、元気をもらえるからです。

障害のある方には、自分ができることは自分でしっかりと行い、できないことはサポートしてもらい、「外へ出ようよ！」と伝えたいです。

また、ボランティアの方々には、視野がとても広がることを知ってもらいたいです。職業や世代を超えた交流ができる機会を自ら積極的に作り出すことが必要です。

最後に、私は今後もこのヨットレースに参加し続けたいと考えています。ここで出会った仲間たちとは数年前よりイベント後小規模にはなりますが、自分で行っています。私は伝えたい。はじめて参加しようと考えている方へ。

海はつながる場所「百恵号」で待っているよ！

野田正夫



海でつながる講演会



蒲郡東高校と、岡崎女子大学の 2 校に対して、「海でつながる障害者セーリングへの挑戦」と「海でつながるひと・人・ヒトヨット大会」についての講演を行いました。

平成 28 年 6 月 15 日(水) 蒲郡東高校 1 年生(241 名)

講師：山本真也：

ロンドン 2012 パラリンピックセーリング競技日本代表、
インチョン 2014 アジアパラセーリング競技日本代表

参加者の感想

- ・パラリンピックについて、初めて詳しく聞いて、とても参考になった。リオでは、パラリンピックにも注目したい。
- ・世界とのヨットのレベルの違いを痛感したのに、あきらめずにパラリンピックに出場した話を聞いて、何事もやる前からあきらめてはいけないと思った。
- ・山本先生が、最初教員になろうと思われていたことや何にでもチャレンジしようとしていることを知り、ハンデを乗り越えて行きようとしている姿勢にすごい感動した。
- ・ボランティアについて「できる人ができない人の不足を補う」や「参加費も自己負担して参加する」というのが世界標準だという話を聞いて、英語を勉強することだけが国際化ではないなと思った。
- ・東京オリンピック・パラリンピックで世界中から来られる人たちと関わるのも国際化だと思うし、そうした際にボランティアに積極的に関わるのも国際化だと思った。
- ・世の中は不公平にできています。能力はあるのに環境のせいでできないなんて不平等です。それでも前を向いて生きている山本さんは最高にかっこいいと思いました。



平成 28 年 6 月 20 日(月) @岡崎女子大学 (42 名)

講師：金子哲三：ヨットエイドジャパン東海 代表

岩本達也：ロンドン 2012 パラリンピック セーリング日本代表団 コーチ、
インチョン 2014 アジアパラ大会 セーリング日本代表団 監督

大洞和彦：トヨタ自動車(株)社会貢献推進部コミュニティーリレーション室 部長

参加者の感想

- ・トヨタ自動車が社員のボランティア活動を支援していることを初めて知り驚きました。その活動に明確なねらいがあり「足りない経験を体験してほしい」という視点は、保育と似ていると思います。また、ターゲット層を狭めているのも理にかなっていてボランティア活動に興味があるが一方見出せない人の背中を押し、社会が変わることに繋げるという意図を聞き、現実的で素敵な考えだと思いました。私もひと・人・ヒトヨット大会に参加してみたいという気持ちになりました。
- ・大洞さんの話の中で、ボランティアをすることで様々なことを知ることができてとてもよい経験になるということを知ってもっと積極的にボランティアに参加したいと思いました。岡崎女子大学はたくさんのボランティア募集をしているのでいろんなボランティアに参加して経験を積み重ねて行きたいです。
- ・ひと・人・ヒトヨット大会では、できるまでに様々な人の出会いがありヨット大会を作ろうとしている・仲間一人ひとりが新たな挑戦に取り組み、いろんな分野の仕事をしている人たちが力を合わせて社会の輪の広がりを感じ社会がヨット大会を通して一つになっていることがすばらしいと感じました。
- ・パラリンピックでコーチをしているすごい人の話を聞いて、ヨットに一度乗ってみたいと思いました。

協力・協賛団体

協力団体 順不同

ソフィア看護専門学校
 チームステップ
 SCRATCH
 東和精機 株式会社
 トヨタ自動車 株式会社
 株式会社 エムエムシー保険サービス
 岡崎女子大学
 FTC「Jr グループ」



特別協賛

日本財団



第20回参加概要

	艇数	参加者数
研修会参加者		283
参加艇	12	47
参加者		138
子ども		20
学生		32
協力艇	2	5
前日参加		121
合計		646



タイムテーブル

7/16



7/17

9:00 スタッフ集合
 9:30 学生集合
 9:45 全体集合・説明
 10:00 専属ボラレクチャー・会場設営等開始
 16:00 諸注意・連絡・説明・解散

7:30 スタッフ集合
 8:30 一般受付
 9:00 開会式
 9:15 艇長会議
 9:30 ヨット乗船開始
 10:30 体験スタート
 12:30 パーティー開始
 14:00 表彰式
 15:00 一般解散
 16:00 スタッフ解散



体験レース結果

1位 Blue Shark Jr.
 2位 Niceday V
 3位 ミストラルVI

～参加艇・協力艇～ (順不同)

PANDORA、SUMMER TIME、ホィジャ-夢幻、ANDANTEⅢ、
 Chestnut6、SUPER CROW、AQUARIUSⅡ、FORTUNA、
 JOY、Coo Coo、コーラルリーフ



主催／ひと・人・ヒトヨット大会2デイズ実行委員会
 共催／蒲郡市、蒲郡ヨット連盟、NPO法人日本障害者セーリング協会、
 ヨットエイド・ジャパン東海
 後援／国土交通省中部地方整備局 港湾空港部、愛知県、アメリカズカップ蒲郡基地協力会、
 JSAF 外洋東海、みなとオアシスがまごおり運営協議会、蒲郡市社会福祉協議会、
 特別協賛／日本財団